

# きゅうしゅう

NO.55



写真：哨戒機P-1

(提供：海上自衛隊鹿屋航空基地広報室)

## 目次 CONTENTS

1. 部隊紹介：海上自衛隊 鹿屋航空基地
2. 自治体紹介：鹿児島県 鹿屋市
3. 業務紹介：九州防衛局 調達部土木課
4. インフォメーション：九州防衛局長着任のご挨拶ほか



防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム

(※ 10 頁に紹介記事があります)

九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行

九州防衛局 総務部

福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎

TEL092-483-8811

# 1. 部隊紹介

## 海上自衛隊 鹿屋航空基地



(ふじわら なおちか)

第1航空群司令 海将補 藤原 直哉

九州防衛局広報「きゅうしゅう」をご愛読の皆様、こんにちは。海上自衛隊第1航空群司令の藤原です。当群の所在する鹿屋航空基地は、豊かな自然の恵みと悠久の歴史を持つ鹿児島県鹿屋市(大隅半島)に位置する海上自衛隊航空基地の一つです。その所在する鹿屋市は、神武天皇の御父君と御母君の御陵である吾平山上稜や、日本最大級の規模を誇る「かのやばら園」等を有し、黒豚や黒毛和牛を中心とする畜産業は全国有数の質と産出額を誇っています。

当基地には、哨戒機P-1により東シナ海を始めとするわが国周辺海域の防衛・警備・警戒監視任務等にあたる第1航空群、回転翼哨戒機SH-60K等により回転翼搭乗員の

養成を行う第211教育航空隊・第212教育航空隊、回転翼救難機UH-60Jにより航空救難や急患輸送を含む災害派遣任務にあたる第22航空隊鹿屋航空分遣隊、航空機の造修整備及び整備用器材の制作を行う第1航空修理隊等の部隊が所在しています。

特に、第1航空群の行う周辺地域の警戒監視任務は、昨今の情勢から益々重要となり、わが国の国益を守るための海上防衛の最前線基地として、周辺市民の皆様のご御理解と御支援の下、24時間365日休むことなく活動を継続しています。

また、当基地には、昭和11年に海軍鹿屋航空隊として発足以来、現在の海上自衛隊鹿屋航空基地に至るまでの史料が豊富に展示されている、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館があります。先の大戦における特攻にまつわる遺書や零戦の実機等の展示物による過去の歴史、災害派遣や四方を海に囲まれたわが国の警戒監視等に対する自衛隊の活動の今……。これらを通じて、これからの未来の私たちの在るべき姿を考える機会になる、自衛隊でも最大規模の史料館ですので、是非一度、お越し頂きたいと思ます。

九州防衛局との連携の下、私たちは、これからも地域の方々とのつながりを大切にしながら、日夜任務に邁進いたします。

第1航空隊  
～海上防衛の最前線を担う～



第1整備補給隊  
～整備や補給のプロが集う技術集団～



鹿屋航空基地隊  
～様々なエキスパートが基地を支える～



### 鹿屋航空基地所在部隊



# 地域との交流



エアーマモリアルinかのや



かのや夏祭り



職場体験学習



鹿屋航空基地開隊記念行事



慰霊祭儀仗隊等派出



史料館来館者200万人達成

鹿屋航空基地では、鹿屋航空基地開隊記念行事、慰霊祭では儀仗隊・ラツパ隊・慰霊飛行等、高校生や中学生への職場体験学習も実施しております。また鹿屋市と共催した『エアーマモリアルinかのや』で地域と共に地域活性化を図り、『かのや夏祭り』では隊員約100名で総踊りに参加しています。

## 史料館&物産館



鹿屋航空基地史料館



零戦展示機



二式大型飛行艇展示機



鹿屋市観光協会物産館

海上自衛隊鹿屋航空基地史料館には、昭和11年に海軍鹿屋航空隊が開隊して以来、現在の海上自衛隊に至るまでの豊富な史料が展示してあります。海軍精神発露の史実、先の大戦における特別特攻隊にまつわる遺品や零戦の実機展示、屋外には二式大型飛行艇も展示しております。※入館料：無料

鹿屋航空基地HP



## 2. 自治体紹介 (鹿児島県鹿屋市)

ひとが元気! まちが元気!  
「未来につながる健康都市 かのや」



### 【自治体紹介】

鹿屋市は、本土最南端へと伸びる鹿児島県大隅半島の中央部に位置し、錦江湾に面した美しい海岸線や壮大な高隈山系、日本一の星空など豊かな自然に恵まれています。

また、国立大学法人鹿屋体育大学や国立大隅青少年自然の家、県民健康プラザ、串良平和アリーナ等の健康・スポーツに関する機関・施設が集積し、神代三山陵の一つである吾平山上陵や戦争遺跡をはじめとする多くの史跡や、かのやばら園、輝北天球館などの観光資源を有しています。

第一次産業を基幹産業とする本市は、さつまいもや野菜、花き、黒豚、黒牛等の生産が盛んであり、全国トップクラスの品質と産出額を誇るほか、鹿児島県の認定ブランドの「かのやカンパチ」の産地でもあります。

近年、東九州自動車道等の整備により、更にアクセスしやすくなった、豊富な地域資源に恵まれた鹿屋市に是非お越しく下さい。



鹿屋市長 中西 茂

### 【自衛隊との関わり】

鹿屋市は、海上自衛隊鹿屋航空基地の開隊以来「基地のまち」として、市民と基地とが良好な関係を築いてきております。

平成6年以降、毎年春に開催される「エアーメモリアルinかのや」には、県内外から多くの方が訪れ、本市の一大イベントの一つとなっています。

自衛隊の皆様には、周辺海空域における警戒監視活動はもとより、災害派遣における各種援助活動など、我が国の平和の維持と、住民の安全安心のため、日夜ご精励されていることを大変心強く感じています。

今後も、地域と鹿屋航空基地が互いに「共存共栄するまち」として、ともに地域の発展・活性化に取り組んでまいりたいと考えています。



～鹿屋市の特産品等をふるさと納税でお届けします～

鹿児島県鹿屋市では、豊かな自然を生かした自慢の特産品をふるさと納税の返礼品として準備しています。

特に人気の高い返礼品は、うなぎや牛肉！ぜひ、この機会に鹿屋市の人気返礼品を皆様にも、ご賞味いただきたいと思ひます。

皆様からのご寄附は、応援して良かったと思ひていただける魅力ある地域づくりのための貴重な財源として、大切に活用させていただいています。

令和2年度の寄附金の使い道を紹介(抜粋)

### 人気の返礼品

#### 定住促進事業



「かのや移住サポートセンター」を設置し、空き家情報の提供や、移住体験活動を実施するなど、移住・定住希望者が安心して相談できる体制を整えました。

#### 出産・育児支援事業



子育ての一環として、新生児から使えるチャイルドシートを購入し、お子様が1歳を迎えるまで、無料で貸し出しを行いました。



うなぎ



牛肉



焼酎

### 検索 荒平天神



ふるさとチョイス  
QRコード



ふるなび  
QRコード



ANAふるさと納税  
QRコード



さとふる  
QRコード



楽天ふるさと納税  
QRコード



### 3. 業務紹介



#### 調達部土木課



九州防衛局調達部土木課は、九州北部の4県（福岡、佐賀、長崎、大分）の自衛隊や在日米軍が使用する飛行場、港湾施設などといった「防衛施設」の土木工事に係る調達業務を行っています。コロナ渦においても感染防止対策を講じながら、整備工事の事業推進に向けて日々頑張っています。

#### 防衛省特有の土木工事



飛行場



港湾施設



火薬庫



燃料タンク

#### 「防衛施設」が完成するまでの流れ

① 施設計画・準備  
(陸・海・空自衛隊等との調整)



ユーザーである現地の自衛隊等と打合せを行い、ニーズを聞き取り、技術的な知見に基づき、施設計画等を行います。

② 調査・設計の実施  
(発注・設計会社との調整)



建設工事を実施するため、設計会社と契約を締結し、Web会議などで打合せを積み重ねて、工事図面を作成(設計)します。

③ 建設工事の実施  
(発注・建設会社との調整)



②で作成した工事図面に基づき、建設企業と契約を締結し、建設企業が建設工事を実施。また、工事現場に赴き、土木課の職員が工事監督官として、工程の管理や品質管理などを行います。

④ 建設工事の完成



工事の完成検査を実施して、ユーザーである自衛隊等に引き渡して建設工事が完成します。

## 4. インフォメーション

### ○伊藤哲也 九州防衛局長着任のご挨拶

九州は、古来より、大陸との交流の窓口であると同時に、太宰府が設置され、防人たちが、国の防衛にあたるなど、昔から国防上重要な地域です。現在の国際情勢を踏まえれば、九州所在の防衛施設の重要性は、ますます高まってきていると言わなければなりません。

防衛施設が、安定的に使用できていることは、住民の皆様や地方公共団体の方々のご理解とご協力があってこそのものであり、心より感謝申し上げます。私も、地域と防衛省の接点として、より一層のご理解を頂けるよう、全力で取り組んで参ります。

個人的なことを申し上げますと、私、子供の頃に3年ばかり鹿児島に住んでおりましたので、九州は元々愛着のある土地であります。今度の九州防衛局への赴任は、非常な喜びでありますし、緊張感を持って、職務を果たしていく所存です。皆様、何卒、よろしくお願い申し上げます。



### ○令和2年度計画護衛艦の起工式を開催

令和3年6月24日（木）、三菱重工業株式会社長崎造船所にて、令和2年度計画護衛艦（以下「O2FFM」という。）の起工式が行われ、式典には、三原長崎防衛支局長、支局員、そして三菱重工業株式会社長崎造船所の関係者が参列しました。

起工式では、地元長崎の「諏訪神社」の宮司による神事が行われ、船こくブロックの組立て開始に先立ち、工事の安全と成功が祈願されました。式典中の「起工の儀」では、三原長崎防衛支局長がブロックの組立て溶接が開始される溶接スイッチを押下。造船所工員が設置した溶接機械が作動しました。

5番艦は令和4年1月からドック内でブロック搭載を開始し、同年6月に進水、令和5年12月に引渡予定です。一方の6番艦は令和4年6月からドック内でブロック搭載を開始し、同年12月に進水、令和6年3月に引渡予定です。



▲集合写真（写真中央：三原長崎防衛支局長・寺田副事業部長）



▲起工の儀（三原長崎防衛支局長による溶接スイッチ押下）

## ○第40回防衛問題セミナー

開催日時：令和3年5月29日（土）14：00～16：00

開催方法：オンラインセミナー（YouTubeライブ配信）

テーマ「災害から身を守る」～助かるために～ あなたは何をしますか？国や自治体は何を？

5月29日（土）、「災害から身を守る」をテーマに九州防衛局初のオンラインによる第40回防衛問題セミナーを開催しました。（総視聴者約1000名）

はじめに、主催者を代表して九州防衛局長から挨拶の後、2部構成での講演が行われました。

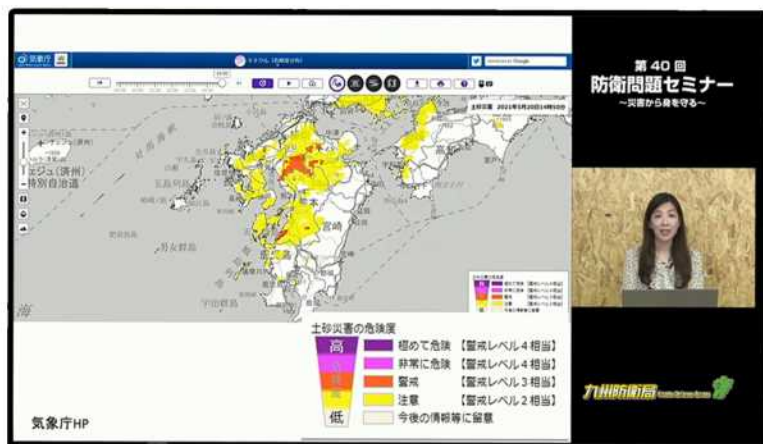
講演の第1部では気象予報士の半井小絵氏が「気象と防災～情報の活用～」と題して、避難情報の見直しによる変更点や過去の災害事例を基に気象データの見方を分かりやすく解説し、災害時に自ら判断して避難するために、前もってリスクを知り、正しい情報を得ることの重要性について講演しました。

第2部では「国際水準から見た日本の危機管理」と題して、軍事アナリストの小川和久氏が、過去の事態や新型コロナウイルス感染症の拡大に対する日本の組織による対処についての解説や諸外国の危機管理との比較を通して、日本の組織（自衛隊、消防、警察、自治体）における危機管理の現状と課題について講演しました。

講演中、質問フォームにより質問を受け付け、質疑応答では視聴者からいただいた質問に先生方からご回答いただきました。

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策としてオンラインでの開催となりましたが、視聴者からは、『場所や時間を気にせず、気軽に参加（視聴）できた』といったご意見を頂きました。

九州防衛局では、今後も防衛省の諸施策や自衛隊の活動についてより多くの方々に理解していただくため、様々なかたちで防衛問題セミナー開催を追求してまいりますので、開催の際は是非ご参加下さい。



▲半井小絵氏による講演



▲小川和久氏による講演



## ○令和元年度計画護衛艦3番艦 命名・進水式 艦名「のしろ」

令和3年6月22日（火）、三菱重工業株式会社長崎造船所にて、九州防衛局長崎防衛支局が監督・検査を担当している令和元年度計画護衛艦3番艦の命名・進水式が執り行われました。

式典当日は晴天に恵まれ、出口佐世保地方総監執行のもと松川防衛大臣政務官、三島防衛技監、山村海上幕僚長、廣瀬九州防衛局長、三原長崎防衛支局長、支局員及び三菱重工業株式会社の関係者が見守る中、粛々と行われました。

命名式では、佐世保音楽隊による国家吹奏に引き続き、松川防衛大臣政務官が命名書を読み上げ、「のしろ」と命名されました。「のしろ」は主に秋田県北部を流れる一級河川の能代川（別称：米代川）に由来しています。また、この艦名は、旧海軍の軽巡洋艦「能代」、海上自衛隊のちくご型護衛艦11番艦「のしろ」に続き3代目になります。

命名式に引き続き、立神艦船製造部長の進水準備完了の合図により、松川防衛大臣政務官が斧を振り下ろし、支綱の切断を行いました。くす玉が割れ佐世保音楽隊が奏でる軍艦マーチのなか、号砲とともに色とりどりの紙テープや風船が舞い艦番号3「のしろ」は進水しました。

「のしろ」は令和4年12月就役予定であり、これから就役に向けた本格的な装工事及び海上での確認運転等が計画されています。九州防衛局長崎防衛支局では引き続き、監督・検査に万全を期して参ります。



▲現自衛艦命名式（松川防衛大臣政務官から「のしろ」と命名）



▲進水式（護衛艦「のしろ」が進水）

## ○オリエント・シールド21の支援について

令和3年6月18日～7月11日にかけて、国内における陸上自衛隊と米陸軍の実動訓練（オリエント・シールド21）が、矢臼別演習場、響庭野演習場や奄美駐屯地等において実施されました。

この訓練は陸上自衛隊及び米陸軍の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における相互連携要領を演練することを通して、共同対処能力の向上を図るものです。

九州防衛局管内においては、奄美駐屯地で共同対空戦闘訓練の一環として、米陸軍の高射部隊（ペトリオット）及び陸上自衛隊の第8高射特科群（中距離地对空誘導弾（中SAM））が展開して、シミュレータを使用した訓練を実施しました。

同訓練の実施に当たり、九州防衛局は6月21日～7月5日の間、職員を派遣し、九州防衛局現地連絡所を奄美駐屯地に開設し、関係自治体に訓練の情報提供などを行いました。

九州防衛局としては、訓練の実施に当たっては、地元自治体、周辺住民の方々の御理解と御協力が不可欠であると考えており、今後とも地元自治体、周辺住民の方々の不安や懸念を解消すべく、誠心誠意努力してまいります。



▲九州防衛局現地連絡所の様子



▲陸自の中SAM（左）と米軍のペトリオット（右）

## ○防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム



防衛省は、全国の地方支分部局である地方防衛局を通じて、安全保障政策への理解促進や危機管理対応、生活環境改善等を目的とした「地域社会との協力を象徴する施策」に積極的に取り組んでいます。

今般、施策に関する広報活動を強化することとし、その一環として、防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレムを作成しました。

今後は、各種イベント等のパンフレットや防衛省の補助事業で整備した施設への標示等に活用していく予定です。

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

**夜間及び休日の連絡先**

電話：(092)483-8832 FAX：(092)472-1959

・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、  
休日は終日。